

読み聞かせボランティア 活動をはじめる前に…

読み聞かせびと養成講座を修了された皆さまは、読み聞かせボランティア活動の入口に立っておられます。このリーフレットには、ボランティア活動を行うにあたって参考になりそうなことがらをいくつかあげています。

皆さまが読み聞かせボランティアの仲間となって、絵本やお話の世界を子どもたちとともに分かち合っていたくことを願っています。

まずは、仲間をつくりましょう

仲間づくりは長続きの秘訣です



・ 現在活動中のグループを見学してみる

「読み聞かせびと養成講座」でお渡ししているボランティアリストを参考に、活動の様子をいくつか見学してみましょ。ポイントを取るには少し勇気が必要ですが、トライしてみましょ。

・ 現在活動中のグループに加わってみる

見学をしてみても、「私にもできそう」「このグループの活動に共感する」と感じたら、グループに加わってみてはいかがでしょう？先輩たちの活動に学ぶところはたくさんあるはずですよ。

・ 自分たちで活動グループをつくる

やはり気心の知れた仲間と活動をしたいという場合は、自らグループを立ちあげるといった選択もあります。仲間あつめ、活動先の開拓、スキルアップなど、苦勞もたくさんあるでしょうが、よるこびはそれ以上かもしれません。

学び続けるために…

子どもとかかわる者の責務として



・ 仲間とたがいに高めあう

他のメンバーの読み聞かせから学びましょ。定期的にミーティングを行い、情報交換をしたり、たがいの活動への姿勢を確認したりしましょ。

・ スキルアップをはかる

図書館や子どもの読書にかかわる団体が主催する、子どもの読書や読み聞かせに関する研修会などに、積極的に参加しましょ。明日の活動につながる、新たな視点が発見できるかもしれません。グループでの勉強会に、講師をまねくのも一案ですよ。

・ グループの拠点をつくる

グループのミーティングなどで使いやすいのは、公民館や区民センター、地域福祉センターなどの会議室が、料金も安く便利ですよ。メンバーが集まるのに便利な場所をさがしましょ。

・ 情報に敏感になる

最近出版された絵本、研修や講演会の開催など、子どもの読書活動をめぐる情報に敏感になりましょ。図書館のホームページなど、インターネットも有効なツールですよ。

- 子ども読書の情報館

<http://www.kodomodokusyo.go.jp/>

- 国立国会図書館 国際子ども図書館

<http://www.kodomo.go.jp/>

- 大阪国際児童文学振興財団

<http://www.iiclo.or.jp/>



さまざまな活動が求められています

グループの性格に合った活動を楽しみましょう



・さまざまな年齢層に

読み聞かせの対象は、乳幼児、幼児、小学生、時には中学生や高校生、高齢者までさまざまです。

最近では、赤ちゃんのころから絵本に親しむことをすすめることが多くなってきていますし、高齢者施設での読み聞かせも増えてきています。

・さまざまな活動場所、場面で

保育所や幼稚園、学校で、児童館や図書館で、地域の育児サークルで、病院で、高齢者施設や障害者施設で。

例えば小学校では、朝の読書の時間や休み時間に活動をおこなう場合もありますし、授業の中で活動する場合もあります。

また児童館などでは、毎月の定例の会の場合もあれば、クリスマスのおたのしみ会での活動もあります。

さまざまな場所や場面で読み聞かせボランティアが活動しています。

・さまざまな活動内容を

絵本の読み聞かせだけでなく、ストーリーテリングや人形劇、ペープサートなどさまざまな内容を組み合わせた活動をおこなう場合があります。

小学校などで授業の内容にそくしたテーマの本を紹介する、ブックトークを行っているグループもあります。

活動の幅を広げてみてはいかがでしょうか？

参考図書



『読書ボランティア-活動ガイド-：どうする？スキルアップ どうなる？
これからのボランティア』 広瀬 恒子著 2008 刊 一声社

『子どもに定番絵本の読み聞かせを：選書眼を育てる 60冊の絵本リスト』
尾野 三千代著 2021 刊 児童図書館研究会

ボランティア活動のポイント



・ 受入れ先との連絡・調整を密にする

どんな子ども(人)に対して読み聞かせをするのか。年齢構成は？
どんな場所で活動するのか。椅子に座って聞くの？外の雑音は聞こえる？
どんな場面で、どんな内容の読み聞かせを求められているのか。朝の読書の15分程度？45分の授業？おたのしみ会で？
綿密な打合せも大切ですし、受入れ先の職員等とよい関係をきづくことが、スムーズな活動に繋がります。

・ 誇りをもって、でも謙虚に

ボランティアとして活動することに誇りを持ちましょう。けっして、受入れ先の下請けではありません。

自分たちはこんな活動をめざしている、絵本とふれ合うよろこびを届けるのだという意識を持つことも大切です。でも、それを押しつけるだけではダメ。受入れ先と十分に話し合っ、互いの理解をはかりましょう。

・ 仲間が何よりの頼りです

グループで活動すると、たまに意見が合わなかったりしてわずらわしく思うこともあります。体調が悪かったり、急な予定が入ったり、そんな場面でも頼りになるのは仲間です。

いろいろな人とともに活動することで、学ぶことも多く、お互いに高めあうこともできるでしょう。

・ 「どんな絵本を読むか」・・・とても大事なことです

短い子ども時代に出会える本数は限られています。おはなし会での読み聞かせが、子どもの一生の友だちとなる本との出会いになれば、どんなにいいでしょう。そのために選書眼をきたえましょう。



神戸市立中央図書館

神戸市中央区楠町7丁目2-1 (078) 371-3351